

VOL. 1 LYNX



cast TOMORROW TAGUCHI ORENOGRAFFITI MONDO YAMAGISHI YOTARO ITO



LYNX PRESENTS THE KATANA PROJECT

Live Dub

LYNX





# LYNX Live Dub VOL.1 LYNX

『LYNX』と『CLOUD』を比較しながら話してみたいと思って。特に核となるオガワと合わせ鏡に位置するエンドウ。この二人が最終的にある意味「滅び」に向かうことは同じでも、その身の投げ出し方、供物になり方が対照的だなと思うんです。もう20年以上前だけど『LYNX』は言わば、

スローデス、  
それが生きること

自分のユニット ZAZOUS THEATER を始めて「ここで一発勝負を賭けた芝居を創る!」という意気込みから生まれた作品。破滅型の人間を究極的に描くという、自分にしか出来ないことを突き詰めるエネルギーがそこにはあり、そこから色々な作品が派生的に生まれることになった。もちろん芝居づくりだけじゃなく、生きることも重ねてはあったけれど。そうしているうちに、自分が「確かに老いている」という実感もどんどん出てくる訳だ。『LYNX』を書いた30歳ではあまり想像出来なかった50歳になり、その間も僕は人より考える時間の多い生活を送っていたから、芝居の内容や創り方にどんどん自覚的になっていった。特に芝居を一時期休んで復帰したあと、40歳を越えたところから演出方法を変えた……変えたというか、より確信的に自分の演出法を推し進めた創り方を始めて。敢えて言うならそんな芝居や演劇とのつきあい方の変化と、年を取っていく自分の変化、それが交錯することでリセットされた今この瞬間に生まれたのが『CLOUD』という作品なのかも知れない。始まりの『LYNX』は枝葉を伸ばし、色々な人や物事に繋がりがながらも一度は破綻する。その破綻をリセットし、新たに再スタートを切らせてくれるのが『CLOUD』じゃないかな。作品そのものじゃなく、当時の創り方では誰の生活も立ちゆかなかった、というのが僕の言う「破綻」。やりたい作品のためにがむしゃらにバイトして、ドロドロに疲れて……みたいなことじゃ、続かないでしょ? 結果、ZAZOUS THEATER にも無理が出ていたし、作品で問いかけるだけじゃなく、何かメジャー化する方法を考えねばと思いつつ、その道が見いだせず行き詰まっていったんだよね。まあその後、商業的に規模の大きな作品を演出する機会も得て、そこでは今度、僕独自の芝居の創り方が薄れざるを得ないというジレンマを抱えることにもなるんだけど。今、どのポジションに立ってもバランスの取り方が非常に難しいのが日本の演劇シーンだと思う。自身の作品でも、商業ベースでも、振り切っているのかどうかの見極め、その条件づけが微妙なんだ。それぞれに面白いこと、やってみたいことは幾らでもあるのに。その辺のことを改善するためには、創り手である僕らと劇場や制作サイドとの間で、今まで以上に創作に対して積極的な意見交換が必要だとは思っている。その方法、より良く創りたい作品を創ることが出来る環境の改善と確保が、今後60代に向かうなかで自分が模索していくべきことだと思っているんだけど。偽善的に聞こえるかも知れないけれど、本当に自分のためだけじゃなく、演劇の持っている可能性とか魅力に、もっと気づいて欲しい

鈴木勝秀 (構成/演出)

written and directed by KATSUHIKO SUZUKI

cast 田口トモロヲ オレノグラフィティ 山岸門人 伊藤ヨタロウ

cast TOMOROWO TAGUCHI ORENORAGRAFITI MONDO YAMAGISHI YOTARO ITO

と思うからなんだけど。一番最初に話した、悲劇の内にある幸福感や神々しさみたいな、何か日常を超えた体験が、テレビや映画よりライブである演劇のほうが当たり前だけど圧倒的に起こりやすい。それはストーリーがもたらすものより、さらに深く大きい、場の空気や時間を共にした状況で初めて起こるシンクロニシティ(共時性)の先にあるもので、人の価値観を変えてしまうくらいの衝撃を孕んでいるはずだから。そういう体験を、もっと多くの人に演劇を通じて欲しいと、僕は本気で思っている。でも、この闘いは生命の危険がダイレクトに迫る、という類のものじゃないから(笑)。ただ、声は上げないといけないし、出来ることから始めないと思っている。より密に演劇の魅力を知ってもらうために、公演とワークショップをセットにするとか、そういう企画を前提にして東京以外の地域の劇場へも作品を持って行く方法を模索する

とか、とにかく良い作品を創るためには制作さんにイヤがられそうな提案でも臆さず押すとか。まあ最初の一步は、自分がやりたい作品のホンを書くことだと思ってるんだけど。だって、いくら僕

## 2012.6/1

LYNX Live Dub 2012年6月-9月-12月、全3回予定

がやりたいことでも、読んだこともない作品で相手を説得するのは無理でしょう? そこで押し問答して無駄な時間を浪費するより、ホンを前提に話したほうが全てがスムーズ。僕は今この国の演劇界全部に否定的ではなくて、少しずつ改善の兆しはあると思っているんだ。でも全体が、世界がゆっくり変わることに責任は持てないし、少なくとも自分レベルでとっとと変えられることがあるなら、変えるべきだと

### サラヴァ東京

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1丁目29-1 渋谷クロスロードビル B1  
TEL/FAX 03-6427-8886

予約/当日 2,500円 (1drink 付) ※ドリンクチケットは公演終了後に使えます。

19:00 open 19:30 start ●終演後、LYNX-CLOUD 連続上演推進会議 (~ 23:00)

SARAVAH 東京 HP 予約フォーム (5/7 0:00 ~)

TEL 03-6427-8886 (5/7 14:00 ~)

### 5/7 OUT

l-amusee.com/saravah/